株式会社エスイー

# 個人投資家向け
# 会社説明会資料

2019年10月7日
株式会社エスイー

# 「安定と成長」　「人々のためになる事業」

## ― 中長期1,000億円企業グループの創出を目指して

# はじめに



私たちエスイーグループは

「社会の安定と持続的成長」、「人々の安全や安心、豊かな生活」を支えるため、一歩先を見据えて社会資本を整備することを使命としてきました。

これからも社会の変化を深く捉え、変化を先取りしながら新しい価値を創造し提供し続けるために、今後注力していく4つの領域を設定しています。

この領域での事業と、目標を実現するための事業活動全体を通じて、国際連合で採択された2030年までに解決すべき国際社会の課題であるSDGs（Sustainable Development Goals）に貢献し、社会的課題を解決していきます。

# 目次



I.　エスイーグループの成長戦略
（4つの社会的課題の解決）

II.　エスイーグループの概要・歴史

III.　エスイーグループの現状

# 目次

I.　エスイーグループの成長戦略
（4つの社会的課題の解決）

II.　エスイーグループの概要・歴史

III.　エスイーグループの現状

# ４つの領域（社会的課題）

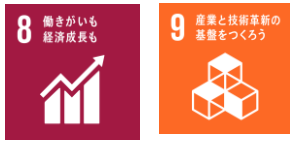
株式会社 エスイー

## 人間と地球にとって包摂的、持続可能、かつ強靭な未来の構築

事業を通じて貢献する
主なSDGsの目標

1. 強靭で快適な地域と暮らしの実現
   ① 防災・減災、国土強靭化
   ② 社会インフラの老朽化対策

2. 超高齢化、少子化でも持続可能な社会の実現
   ● 労働人口減少への対応




3. 持続可能で地球環境に配慮した社会の実現
   ● エネルギー安保

4. 途上国の持続可能な成長への支援

# 課題1：強靭で快適な地域と暮らしの実現

株式会社 エスイー

［課題］

## ①防災・減災、国土強靭化

■ **災害大国としての備え（地震、集中豪雨、異常気象への対策）**

- 近年、災害の頻発、激甚化
  （昨年だけでも7月豪雨、台風21号、北海道胆振東部地震で甚大な被害）
- 「防災・減災、国土強靭化のための3か年緊急対策」
  （平成30年12月閣議決定、概ね7兆円程度の事業規模）

［これまでの取組み］

■ **主力製品　→　マーケット・リーダー**

- 斜面の地滑り対策（グラウンドアンカー、KIT/ESCON受圧板）
- 橋梁の耐震装置（落橋防止装置）

# 課題1：強靭で快適な地域と暮らしの実現

株式会社 エスイー

［課題］

## ②社会インフラの老朽化対策

■ **高度経済成長期に建設された社会インフラの維持管理・更新**

- 建設後50年以上経過する施設の割合

  2018年3月時点：17～32％（道路橋：25％）

  2033年3月時点：42～63％（道路橋：63％）　（2019年9月14日付日本経済新聞）

［これまでの取組み］

■ **主力製品に加え、補修・補強工事業を強化**

- NEXCO等道路橋への耐震装置（落橋防止装置）
- 補修・補強工事業をM&Aで強化
- 一般社団法人 日本構造物診断技術協会（NSI）の運営

# 課題1：強靭で快適な地域と暮らしの実現

株式会社 エスイー

［今後の具体的な戦略］

■ **エスイーグループの強みを活かした既存事業の受注拡大**

①アンカー工法の応用分野拡大：砂防堰堤、海岸堤防、嵩上げ

②土木分野における耐震金物の受注拡大

③インフラの大規模更新、補修・補強工事の獲得

■ **補修・補強工事業の更なる強化**

①ESCONを利用した補修・補強の独自工法の開発と提案
（凍害・塩害・道路橋の経年疲労対策等）

②営業力強化、安定顧客層の形成による受注力向上

③施工力の強化と施工品質の向上

④事業エリアの拡大とエンジニアの積極的採用

# 課題2：超高齢化、少子化でも持続可能な社会の実現

株式会社 エスイー

［課題］

## 労働人口減少への対応

### ■ 建設業就業人口の減少

- 建設分野の就労者は、1992年の約750万人から2025年には250万人へ減少（総務省推計）
- 熟練工の高齢化と若手入職者の減少、人材不足、労務費高騰

［これまでの取組み］

### ■ ESCONの開発・展開

- 普通コンクリートの1/2の工期に短縮、1/3の人手に省力化可能なESCON（超高強度合成繊維補強コンクリート）の開発
- ESCON協会（会員企業37社）の活動による共創プロジェクト体制を構築

[これまでの取組み]（続き）

■ **ESCONの特長**

**超高強度**

圧縮強度： 普通コンクリートの**6倍以上**

曲げ引張強度： 普通コンクリートの**7倍以上**

**高耐久性**

水も空気も通さず、**塩害に強い**

➡社会インフラの長寿命化（100年以上の耐用年数）

➡軽く薄いことによる耐震構造物の創出

［今後の具体的な戦略］

■ **ESCONの拡販**

**①ESCON協会員企業との共同化で、10プロジェクトが具体化**

②製品化ならびに製品ラインナップの拡充

③ESCON協会員企業37社と共同でマーケティング

④ESCON協会による新分野・新応用技術の開発
（土木、建築、一般分野）

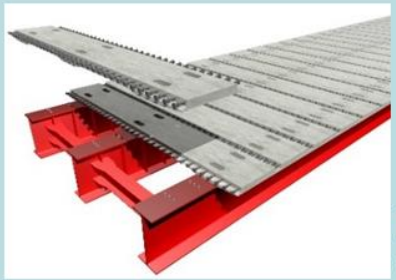
A&Kホンシュウ　須賀川工場

ESCON　宇部工場

# [今後の具体的な戦略](続き)

## ■ ESCON製品の用途

### 橋梁構造分野



ESCONスラブ
(道路橋用床版)

中・小規模橋梁への適用

柱部材への適用

### 環境防災分野

ESCON保護ブロック
(耐磨耗パネル)

ESCON受圧板
(グラウンドアンカー用)

ESCONパネル
(ロックボルト用)

ESCONカバープレート
(漁港岸壁アンカー用)

### その他分野

ESCONデッキ(覆工板)

# 課題3：持続可能で地球環境に配慮した社会の実現

SEC 株式会社 エスイー

［課題］

## クリーンエネルギーとエネルギー安保

■ **$CO_2$、放射線を発生しない新しいクリーンエネルギー**

- 日本政府のゼロエミッション電源(＊)比率の2030年度目標は44％（2016年度の実績は16％）

  （＊）発電時に$CO_2$を排出しない再生可能エネルギーと原子力

- 原子力は期待できず、クリーンエネルギーの拡大が必須

■ **エネルギー安全保障**

- 日本のエネルギー自給率は9.6%と極めて低水準

［これまでの取組み］

■ **「プラズマ発電」の事業化**

- 基礎研究開発に成功、実用化研究開発中

［今後の具体的な戦略］

## ■「プラズマ発電」の事業化

- 国の指導・協力を取り付け、国家プロジェクトとして事業推進を目指す
- エネルギー消費地で中規模発電所を建設し、送電線が不要で災害に強いエネルギーの開発
- エネルギー安保政策上、原材料の国内調達は不可欠

# 課題4：途上国の持続可能な成長への支援

株式会社 エスイー

［課題］

- 途上国の持続可能な成長を日本のベスト・プラクティス（知見・技術）を発信・共有し、支援
  - 日本政府は、アフリカ及び東南アジアを重点地域として、国際社会にベスト・プラクティスを共有・展開する方針

［これまでの取組み］

- 海外での事業拡大
  - グループ会社の㈱アンジェロセックは、アフリカフランス語圏での建設コンサルティングのリーディングカンパニー
  - ベトナムでは建設コンサルタント事業の合弁会社VJEC（Vietnam Japan Engineering Consultants）が創立13年目

株式会社 エスイー

## [これまでの取組み]（続き）

### ■ ベトナム・バクダン橋の完成（2018年9月）

- ㈱エスイーを含む日越8社によるBOT事業
- ㈱エスイーが提案し、㈱アンジェロセックが設計を担当
- 橋長5km、幅員27m、3主塔の4径間連続PC斜張橋（スパン240m）

バックダン橋・ハイフォン-ハロン間高速道路

株式会社 エスイー

## [これまでの取組み]（続き）

### ■ 東アフリカ初のPC斜張橋 ナイル架橋が完工

- 日本政府の有償資金協力によるODAプロジェクト
- ウガンダ共和国ジンジャ県のナイル川源流付近におけるアフリカ全土で最大級のPC斜張橋（橋長525m）
- SEEE／FUT-H型斜材ケーブルが採用
- ㈱エスイーから資材供給、架設機材リース、スーパーバイザー派遣、エンジニアリングを提供

［今後の具体的な戦略］

■ ベトナム事業の拡大

- ESCON工場の合弁事業等、VJECを中心に合弁事業拡大
- BIM（Building Information Modeling）の連動による建築市場の開発・事業化
（対象： 学校、病院、マンション、オフィスビル、工場等）
- ベトナム進出の背景：
①GDPが毎年6％以上成長
②5年後には総人口が1億人突破
③中国から「ベトナムシフト」する外資系企業が増加

［今後の具体的な戦略］（続き）

■ ㈱アンジェロセックとフランスINGEROP社との連携強化

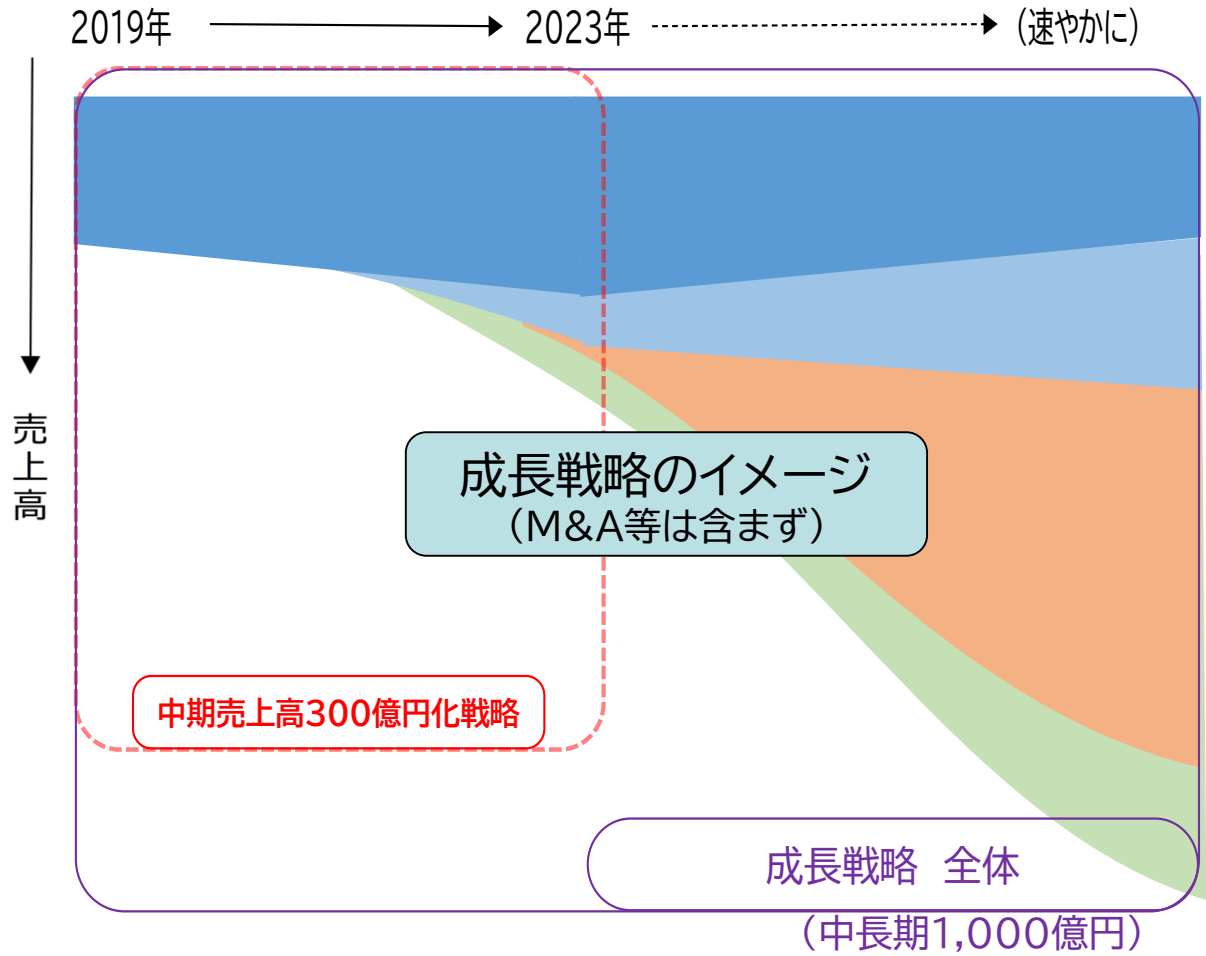
- フランス、イギリス、ドイツ、日本による世界的な建設エンジニアリング＆コンサルティング・ネットワークを強化
- 情報共有や人材交流を通じて事業推進を更に強化
- インフラ先進国のフランスから、先端技術BIM（Building Information Modeling）を積極的に導入
- ㈱アンジェロセックは、アフリカ・フランス語圏の他、東南アジア、ユーラシア大陸でのエンジニアリングを目指す

# ４つの領域（社会的課題）と成長戦略

株式会社 エスイー

- 成長戦略では、社会的課題解決に貢献する結果として、エスイーグループも飛躍
- 課題1で安定的に成長しつつ、研究開発・共創プロジェクトを加速化、機動的なM&Aも実施し、早期実現を目指す

| | |
|---|---|
| 1 | 強靭で快適な地域と暮らし |
| 2 | 超高齢化、少子化でも持続可能な社会 |
| 3 | 持続可能で地球環境に配慮した社会 |
| 4 | 途上国の持続可能な成長への支援 |



# 目次

I.　エスイーグループの成長戦略
（4つの社会的課題の解決）

II.　エスイーグループの概要・歴史

III.　エスイーグループの現状

# 会社概要



SEC 株式会社 エスイー

| | | |
|---|---|---|
| ■商号 | ： | 株式会社エスイー |
| ■創業 | ： | 1967年(昭和42年) 8月 |
| ■設立 | ： | 1981年(昭和56年)12月 |
| ■資本金 | ： | 12億2,805万円 |
| ■代表取締役 | ： | 代表取締役会長　森元　峯夫 |
| | ： | 代表取締役社長　宮原　一郎 |
| ■本店所在地 | ： | 東京都新宿区西新宿六丁目5番1号 |
| ■連結子会社数 | ： | 6社 |
| ■従業員数 | ： | 単体166名　連結498名(2019年3月31日現在) |
| ■株主数 | ： | 4,845名(2019年3月31日現在) |
| ■上場市場 | ： | 東京証券取引所JASDAQ市場スタンダード<br>（証券コード　3423） |

# 事業内容～創業

**1967年　創業**
フランスS.E.E.E.社（現INGEROP社）より
SEEE工法を日本に導入し、SEEE事業部門
として製造・営業開始

**1981年　株式会社エスイー設立**
（旧社名：エスイー産業株式会社）
SEEE事業部門所轄の営業部門を独立させ、
SEEE工法を主力とした製品の販売会社とし
て営業開始

# 事業内容～「SEEEケーブル」

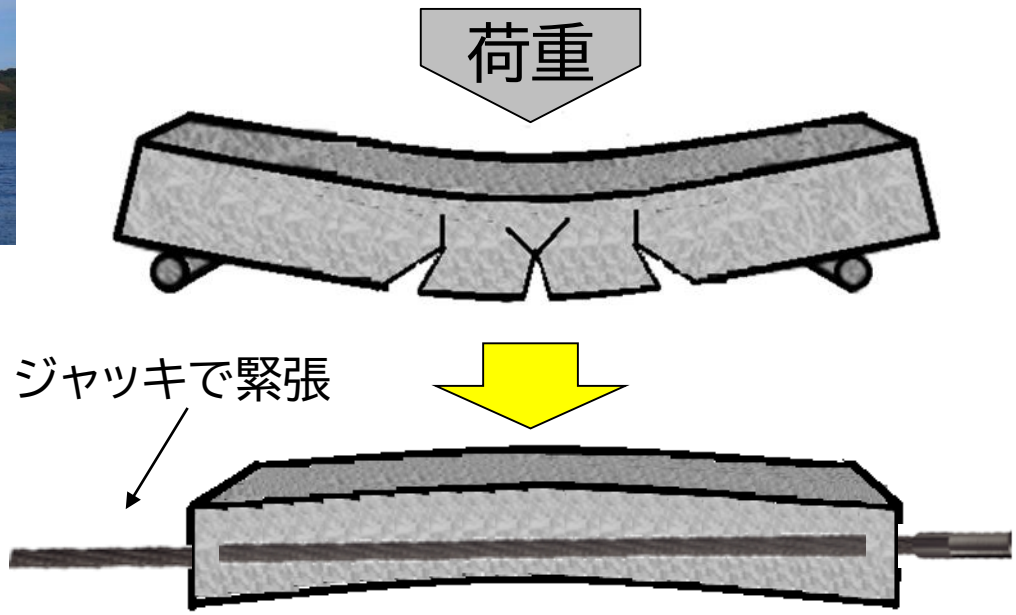
株式会社 エスイー

## ■PC（プレストレストコンクリート）用緊張材である「SEEEケーブル」

「日本でも、こんな立派な橋を作りたい」

コンクリート橋　日　本：　40～50m
フランス：　100m超

**コンクリートの弱点：**
圧縮力に対しては強いが引張力に対しては非常に弱い




コンクリートにプレストレスを与える

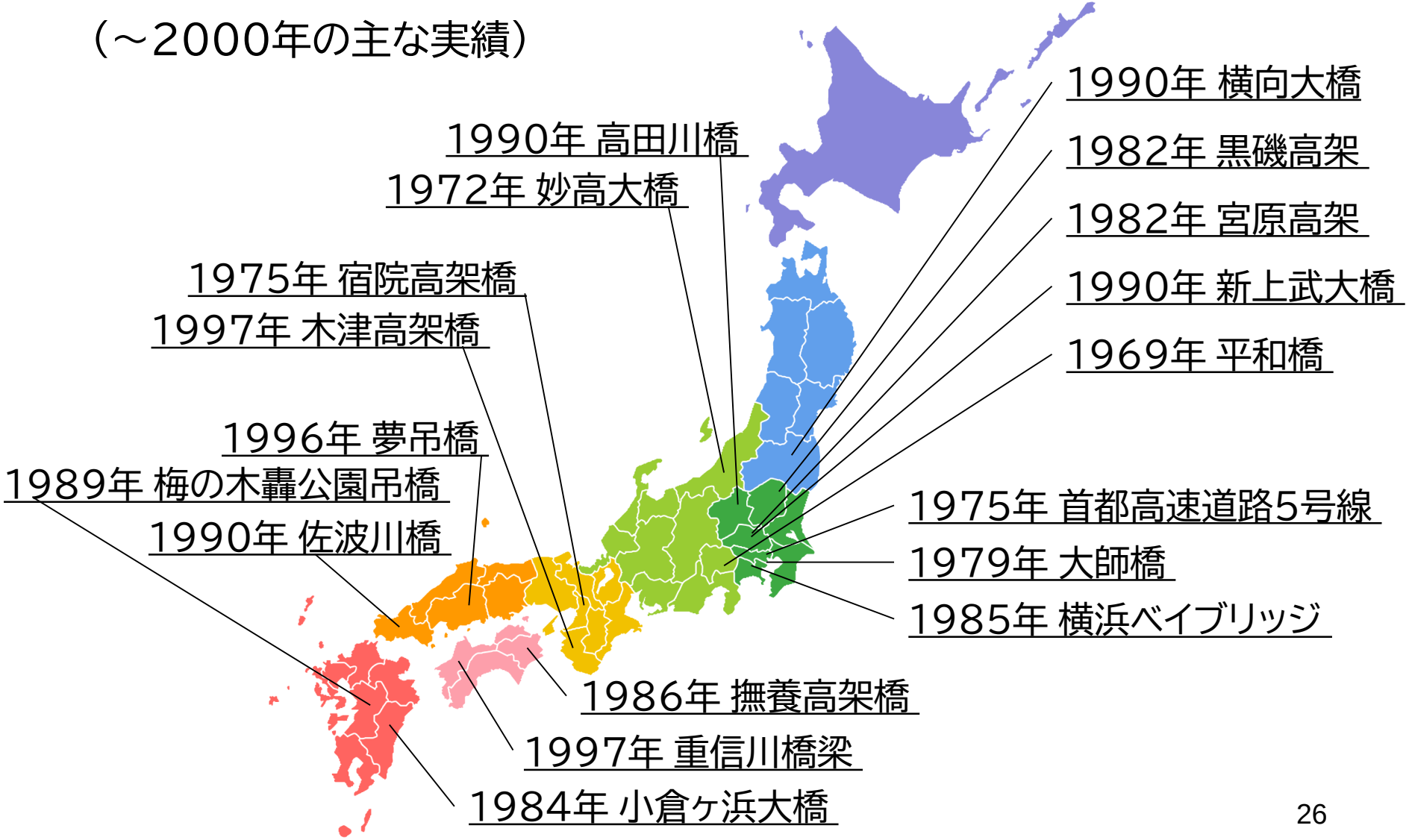
■ SEEE工法の特色
- 多重PC鋼線でフレキシブルで引っ張る力が強い
- 端部をナットで固定。現場作業や再緊張が容易

# 事業内容～PC定着「SEEEケーブル」（実績）

株式会社 エスイー

■「SEEEケーブル」は、創業後1990年代までに急速に普及

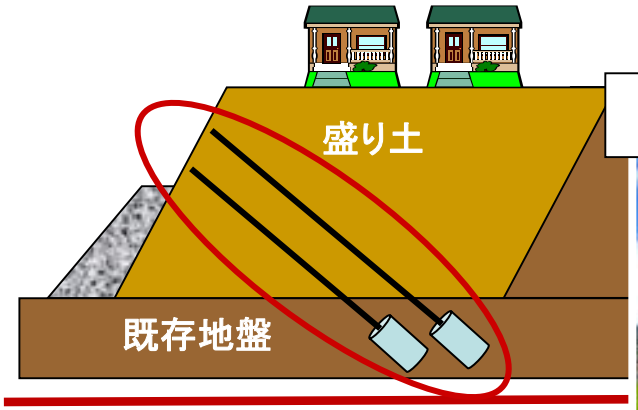
（～2000年の主な実績）



# 事業内容～ケーブルの展開

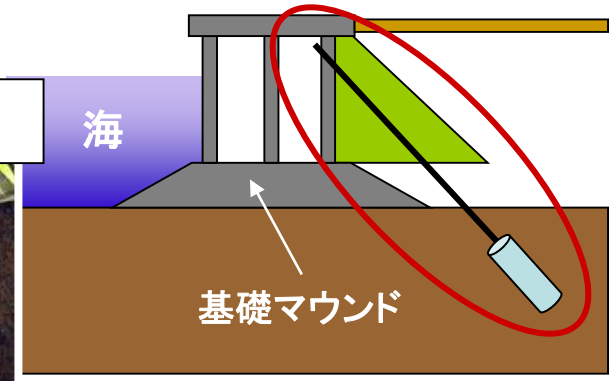
SEC 株式会社 エスイー

## 宅地造成地耐震補強

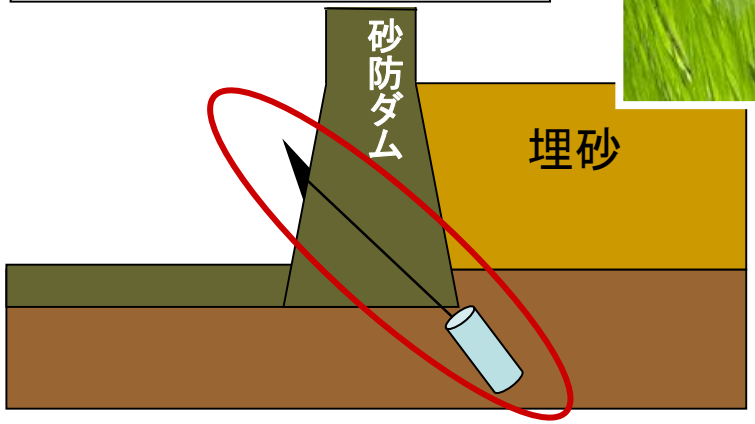



## 斜面の土砂崩れ防止

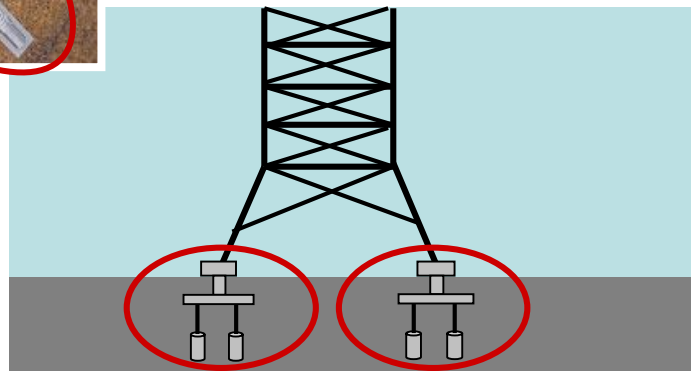
## 港湾・漁港構造物の耐震補強




## 砂防ダム補強




## 鉄塔基礎の補強

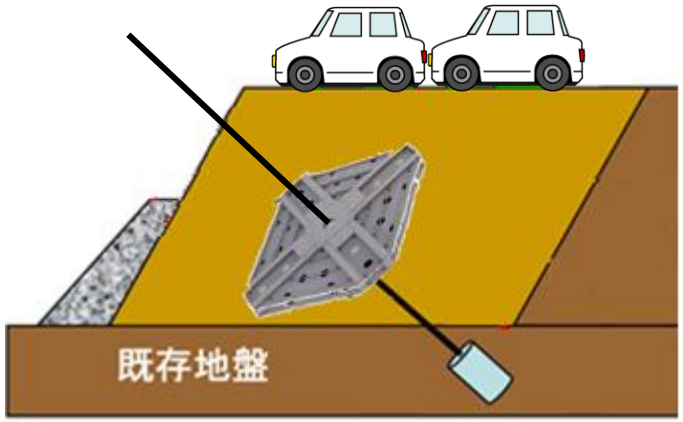


**急速施工できる津波対策防波堤も開発中**

# 事業内容～ケーブルの展開(グラウンドアンカー)

SEC 株式会社 エスイー

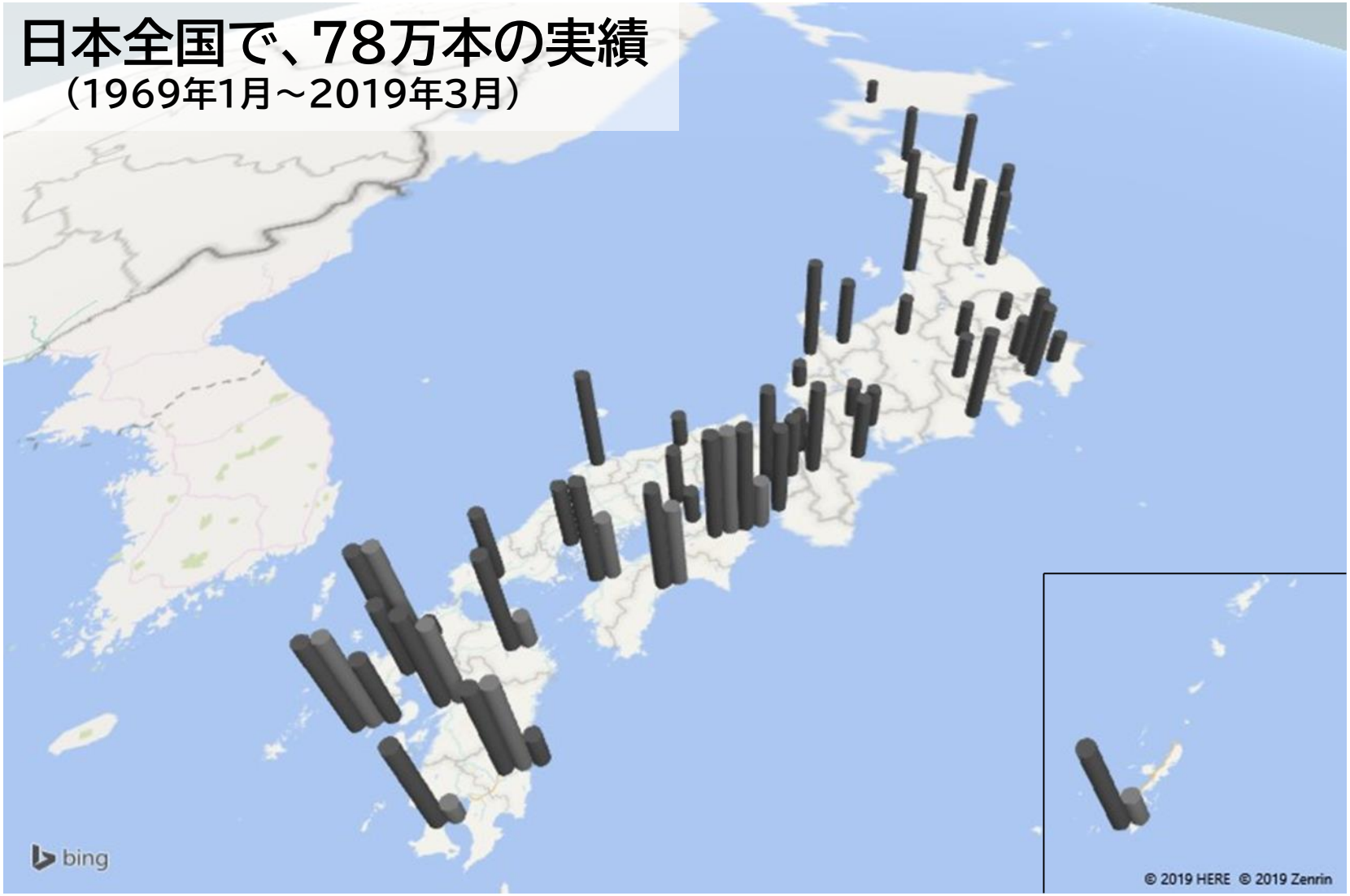
## ■「SEEEグラウンドアンカー」



# 事業内容～グランドアンカー実績

株式会社 エスイー

## ■「SEEEグラウンドアンカー」



# 事業内容～製品の多様化

株式会社 エスイー

## ■多様な建設資材への展開

落橋防止装置
（F-TD型）

斜張橋用斜材ケーブル
（SEEE/FUT-H型）

KIT受圧板
（クロスタイプ）

落橋防止装置
（タイブリッジシステム）

# 事業内容～市場環境

株式会社 エスイー

**■建設後50年以上経過する施設の割合は、2018年3月時点で17～32%**

2019年9月14日　日本経済新聞　朝刊

## 台風で停電 復旧あと2週間

# 老朽インフラ 日本の岐路に

大規模停電を引き起こした台風15号は生活インフラが抱える災害リスクを浮き彫りにした。なお17万戸が停電し影響はライフラインに広がる。1970年代に整備が進んだ送電施設は更新時期が迫り老いるインフラは道路などにも共通する課題だ。国と地方を合わせた借金が1千兆円と財政が厳しく社会保障費も膨らむなか、巨額投資によりインフラをどこまで維持していくか、重い判断が迫られる。（関連記事を社会面に）

台風15号が首都圏を直撃した9日以降、千葉県南部を中心に停電が続く。東京電力パワーグリッドは13日夜、東京都内で記者会見し、「今後、2週間以内におおむね復旧見込み」と発表した。

同社は当初、11日に全面復旧するとの見通しを発表していたが、会見で「過去の被害規模から過小な想定をしてしまった。複雑な難工事に直面している」と釈明した。房総半島の送電網は山林に張り巡らされており、倒木によって大規模に損傷しているという。

台風による被害は広範囲に及び、停電の全面復旧は時間がかかる傾向にある。2018年に関西を襲った台風21号の被害は、全面復旧まで17日間を要した。

停電はライフライン全体に影響を及ぼした。携帯電話の電波を飛ばす基地局が多くの場所で機能せず、スマートフォンの電源も確保できなくなったため、11年の東日本大震災の際には避難所や支援物資の情報共有で力を発揮したSNS（交流サイト）の効果も限定的なものになった。市役所などに設置された充電設備には電源を求める人で長蛇の列ができた。

被害が広がった背景として、想定外の強風に加え、送電設備の老朽化も指摘されている。送電線の鉄塔は70年代に建てられたものが大部分を占める。倒壊し、10万戸の大規模停電につながった千葉県君津市の鉄塔は72年に完成したものだった。

電力各社などでつくる電力広域的運営推進機関によると、15年度末の時点で約25万基ある送電鉄塔のうち、製造年が00年代のものは年約千基ペースなのに対し、70年代は年6千～8千基にのぼる。東京電力管内の鉄塔の平均使用年数は42年。設置場所や塗装などによって違いはあるが、老朽化は着実に進行している。

広域機関は既存の設備を現在のペースで全て更新した場合、鉄塔で250年程度かかる計算としている。

台風に有効とされるのが、電柱の地中化だ。だが、電柱は1キロメートル当たりの復旧費が2千万～3千万円で済むのに対し、地中化は同4億～5億円に上る。

東京電力ホールディングスは東日本大震災の原発事故で経営危機に陥り、送電関連の設備投資を抑えることで収益を確保してきた。91年に送電や配電設備などに約9千億円を投じたが、15年に8割減の約2千億円まで減少。発送電分離などで電力が自由化に進むなか、耐久性があると判断した設備は更新を先延ばしするなどして、できる限り投資を抑えているのが実情だ。

インフラの老朽化は電力以外でも深刻だ。建設から50年以上が経過する施設の割合は18年3月時点で73万ある道路橋の25%、1万超のトンネルの20%、5千の港湾岸壁の17%に及ぶ。時間が経過すれば割合はさらに増える。33年には道路橋の6割超、トンネルでも4割が建設から50年を超える。

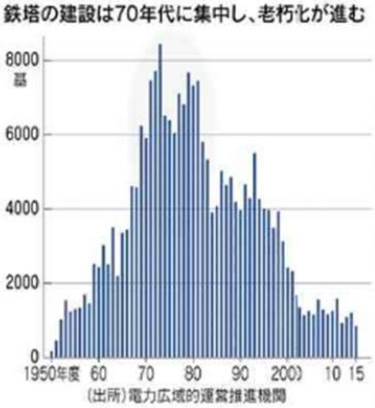
国土交通相に就任した赤羽一嘉氏は、大規模自然災害について「発生のたびに100年に1度の規模だといわれるが、今後は毎年起きると思って対策を進める必要がある」と指摘する。国交省の推計では今後30年間で必要となる費用は最大で約195兆円に及ぶ。

ただ、日本の財政状況は先進国で最悪だ。人口減少に備えて既存インフラの廃止や、住宅や商業施設を集約する「コンパクトシティー」も重要な選択肢だ。しかし名古屋大学の中村光教授は「住民の反発を恐れて自治体での議論はほとんど進んでいない」と警鐘を鳴らす。維持すべき施設を選別する方法論は専門家の間でも議論は深まっていないという。

（山田薫、竹内宏介、栗本優）

## 送電網や道路橋 更新コスト重く

台風15号の影響で倒れた鉄塔（9日、千葉県君津市）




老朽化は一層、深刻になる
（建設後50年以上たつインフラの割合）

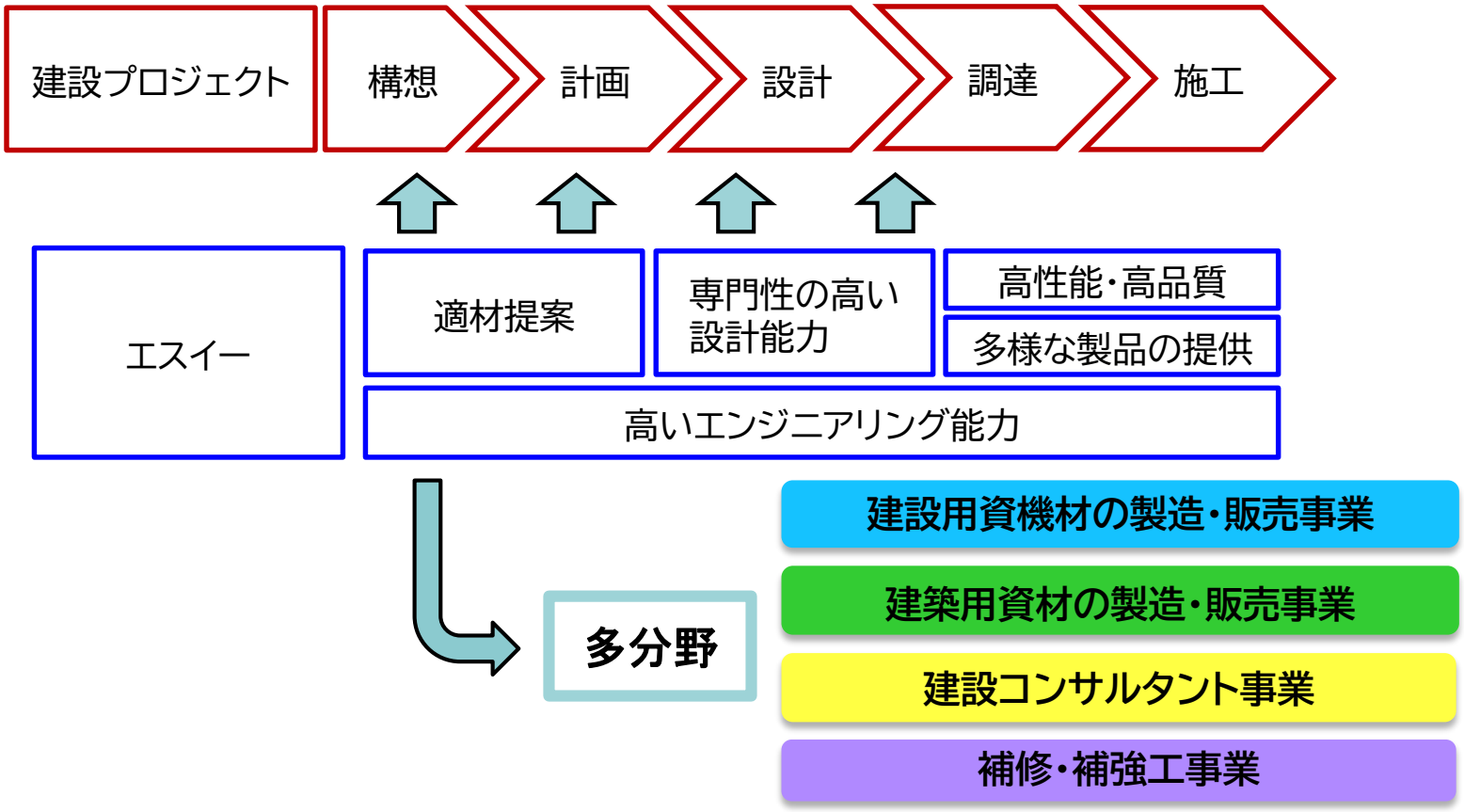
| | 2018年3月 | 2033年3月 |
|---|---|---|
| 道路橋（約73万） | 25% | 63% |
| トンネル（約1.1万） | 20% | 42% |
| 河川管理施設（水門など、約1万） | 32% | 62% |
| 港湾岸壁（約5千） | 17% | 58% |

（出所）国土交通省の資料から作成

# 事業内容～ビジネスモデル・強み

株式会社 エスイー

- 当社は、単なるケーブルの製造会社ではなく、社会インフラ事業の各プロセスにおいて、付加価値を創出
- その実績・ノウハウにより、現在は4つのセグメントの事業を展開



# 事業内容～セグメント別

株式会社 エスイー

エスイーグループの事業は、4つのセグメントにより構成されています。

## 建設用資機材の製造・販売事業

・ケーブル製品分野
・鉄鋼製品分野
・コンクリート製品分野

エスイー　A&Kホンシュウ　エスイー鉄建

## 建築用資材の製造・販売事業

・建物に用いられる建築用関連製品の製造・販売

A&Kホンシュウ　エスイー鉄建

## 建設コンサルタント事業

・海外（特にアフリカ、東南アジア）での道路、橋梁、建機、水、エネルギー、開発調査等に係るODA市場とアフリカ諸国等での幅広い建設コンサルタントサービスの提供

アンジェロセック

## 補修・補強工事事業

・補修・補強工事（橋梁構造物、トンネル、水力発電所等）を中心とした施工　および点検・調査業務

エスイーリペア　ランドプラン

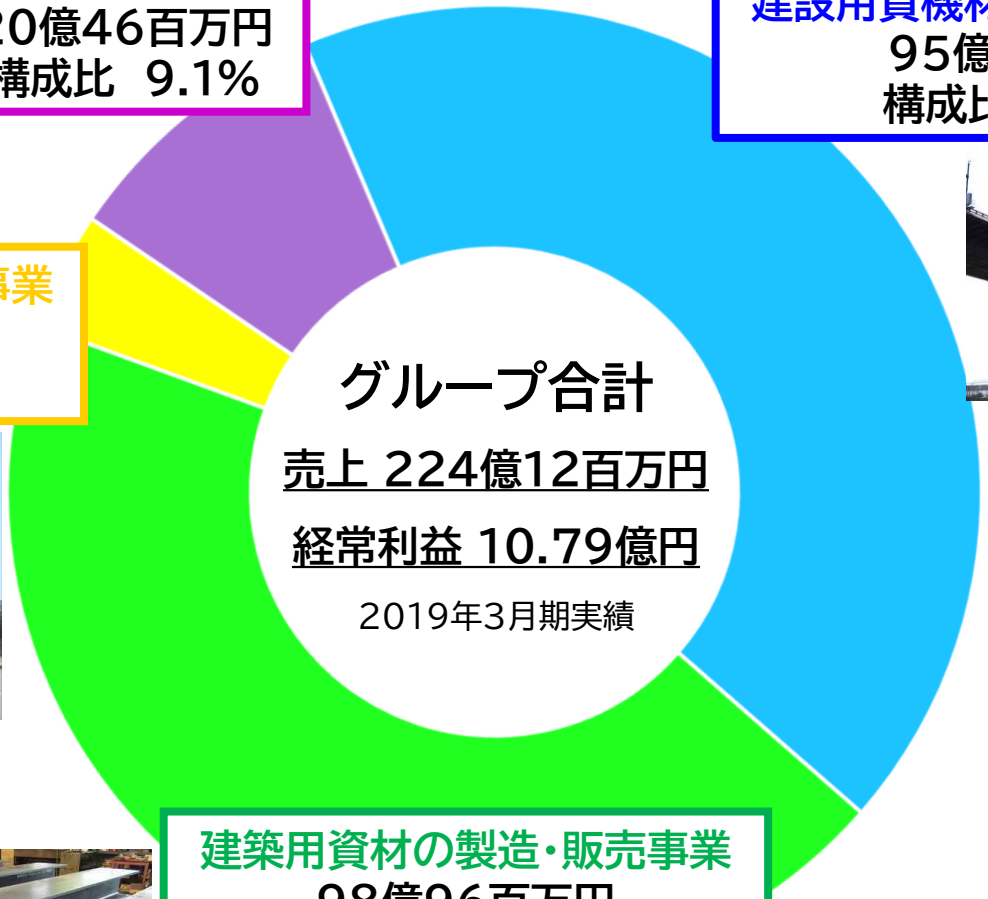
# 事業内容～セグメント別売上高・構成比

株式会社 エスイー

**補修・補強工事事業**
20億46百万円
構成比　9.1%

**建設用資機材の製造・販売事業**
95億94百万円
構成比　42.8%

**建設コンサルタント事業**
8億75百万円
構成比　3.9%



**建築用資材の製造・販売事業**
98億96百万円
構成比　44.2%

# エスイーグループ　成長の軌跡

SEC 株式会社 エスイー

## 《エスイーの歩み》

**1967**（昭和42年）　新構造技術株式会社がフランスS.E.E.E.社（現・INGÉROP[アンジェロップ]社）よりSEEE工法を日本に導入し、SEEE事業部門として製造・営業開始。

**1981**（昭和56年）　株式会社エスイー（旧社名：エスイー産業株式会社）を設立。新構造技術株式会社SEEE事業部門所轄の営業部門を独立させ、SEEE工法を主力とした製品の販売会社として営業開始。

**1989**（平成元年）　「斜張橋用斜材F-PH型」の販売を開始（佐賀県の呼子大橋に採用）。

**1990**（平成2年）　新構造技術株式会社より製品製造部門および工業所有権を譲受け、神奈川県厚木市に厚木工場を設置。

**1994**（平成6年）　「斜張橋用斜材F500PH型」の販売を開始（埼玉県の秩父公園橋に採用）。山口県山口市に山口工場を新設。関連会社：Korea SE Corporation（株式会社コリアエスイー、日韓合弁）設立。

**1995**（平成7年）　「新型落橋防止装置」の販売を開始。

**1999**（平成11年）　株式店頭公開（現・東京証券取引所JASDAQ市場上場）：資本金10億4,610万円。

**2001**（平成13年）　関連会社：株式会社アンジェロセック（日仏合弁）を設立。

**2007**（平成19年）　National University of Civil Engineeringと業務提携し、VJEC（Vietnam Japan Engineering Consultants Co., Ltd.）を設立。

**2009**（平成21年）　朝日興業株式会社をM&Aによりグループ化。その後エスイー朝日株式会社へ社名変更。

**2010**（平成22年）　株式会社キョウエイをM&Aによりグループ化。

**2012**（平成24年）　株式会社仲田建設をM&Aによりグループ化。エスイーリペア株式会社に商号変更。株式会社キョウエイとエスイー朝日株式会社を合併。エスイーA&K株式会社に商号変更。

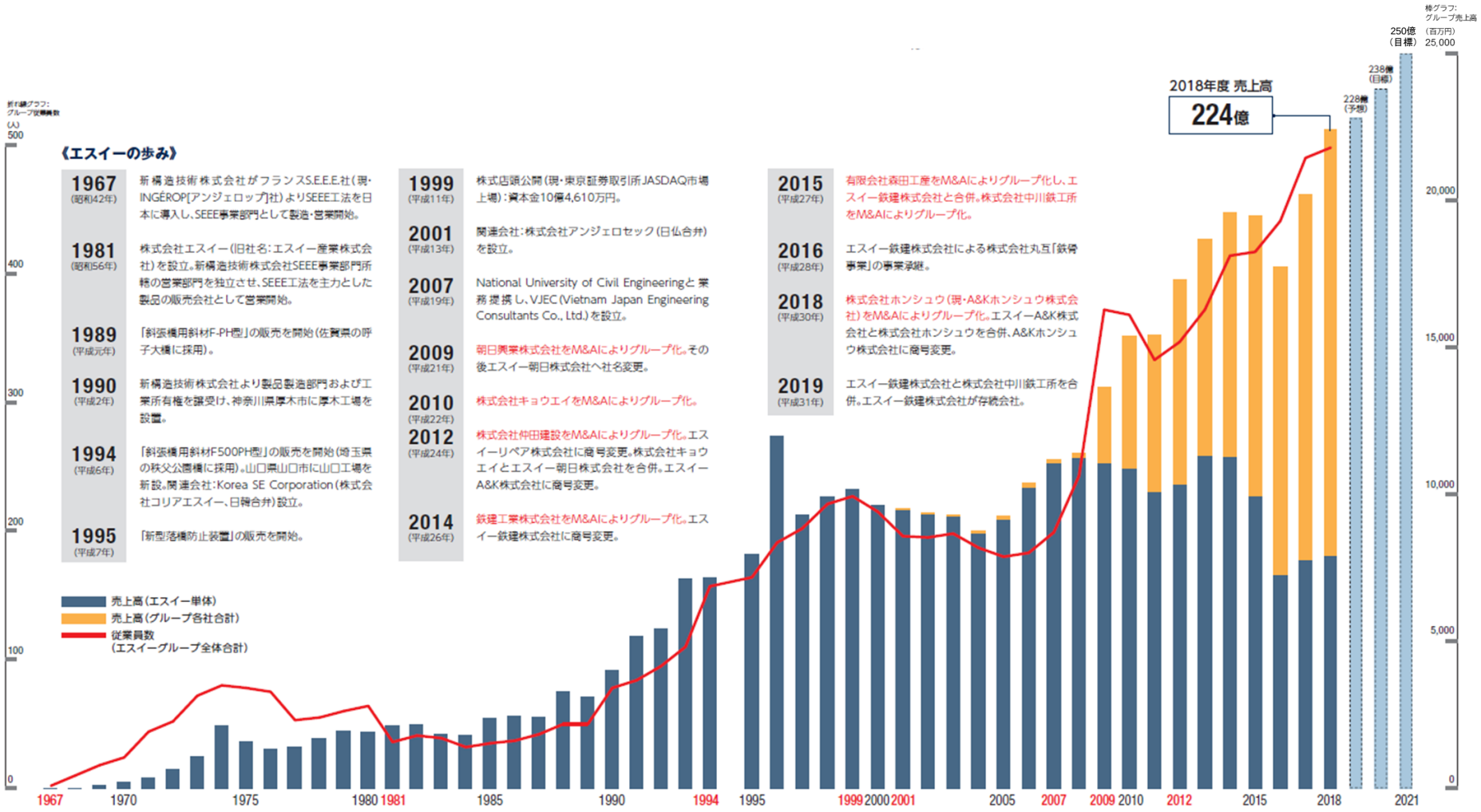
**2014**（平成26年）　鉄建工業株式会社をM&Aによりグループ化。エスイー鉄建株式会社に商号変更。

**2015**（平成27年）　有限会社森田工産をM&Aによりグループ化し、エスイー鉄建株式会社と合併。株式会社中川鉄工所をM&Aによりグループ化。

**2016**（平成28年）　エスイー鉄建株式会社による株式会社丸互「鉄骨事業」の事業承継。

**2018**（平成30年）　株式会社ホンシュウ（現・A&Kホンシュウ株式会社）をM&Aによりグループ化。エスイーA&K株式会社と株式会社ホンシュウを合併、A&Kホンシュウ株式会社に商号変更。

**2019**（平成31年）　エスイー鉄建株式会社と株式会社中川鉄工所を合併。エスイー鉄建株式会社が存続会社。



# 目次

I.　エスイーグループの成長戦略
（4つの社会的課題の解決）

II.　エスイーグループの概要・歴史

III.　エスイーグループの現状

# 連結決算概要

株式会社 エスイー

## ■近年は、増収増益基調

（単位：百万円）

| | 2015年<br>3月期 | 2016年<br>3月期 | 2017年<br>3月期 | 2018年<br>3月期 | 2019年<br>3月期 |
|---|---|---|---|---|---|
| 売上高 | 19,606 | 19,490 | 17,742 | 20,197 | 22,412 |
| （前年比増加率） | （+4.9%） | （▲0.6%） | （▲9.0%） | （+13.8%） | （+11.0%） |
| 営業利益 | 692 | 512 | 656 | 954 | 1,120 |
| （前年比増加率） | （▲45.8%） | （▲26.0%） | （+28.0%） | （+45.4%） | （+17.4%） |
| （対売上比） | （3.5%） | （2.6%） | （3.7%） | （4.7%） | （5.0%） |
| 親会社帰属<br>当期利益 | 349 | 358 | 429 | 680 | 699 |
| （前年比増加率） | （▲55.9%） | （+2.6%） | （+19.9%） | （+58.4%） | （+2.9%） |
| （対売上比） | （1.8%） | （1.8%） | （2.4%） | （3.4%） | （3.1%） |
| 純資産 | 7,766 | 7,666 | 7,781 | 8,345 | 8,712 |
| 総資産 | 20,556 | 21,579 | 21,633 | 22,525 | 23,093 |
| 自己資本比率 | 37.7% | 35.5% | 35.9% | 37.0% | 37.6% |
| ROE | 4.5% | 4.6% | 5.6% | 8.5% | 8.2% |

# 株式関連

株式会社 エスイー

■配当の基本方針： 株主資本の充実と長期的な安定収益力を維持するとともに、業績に裏付けられた適正な利益配分を継続

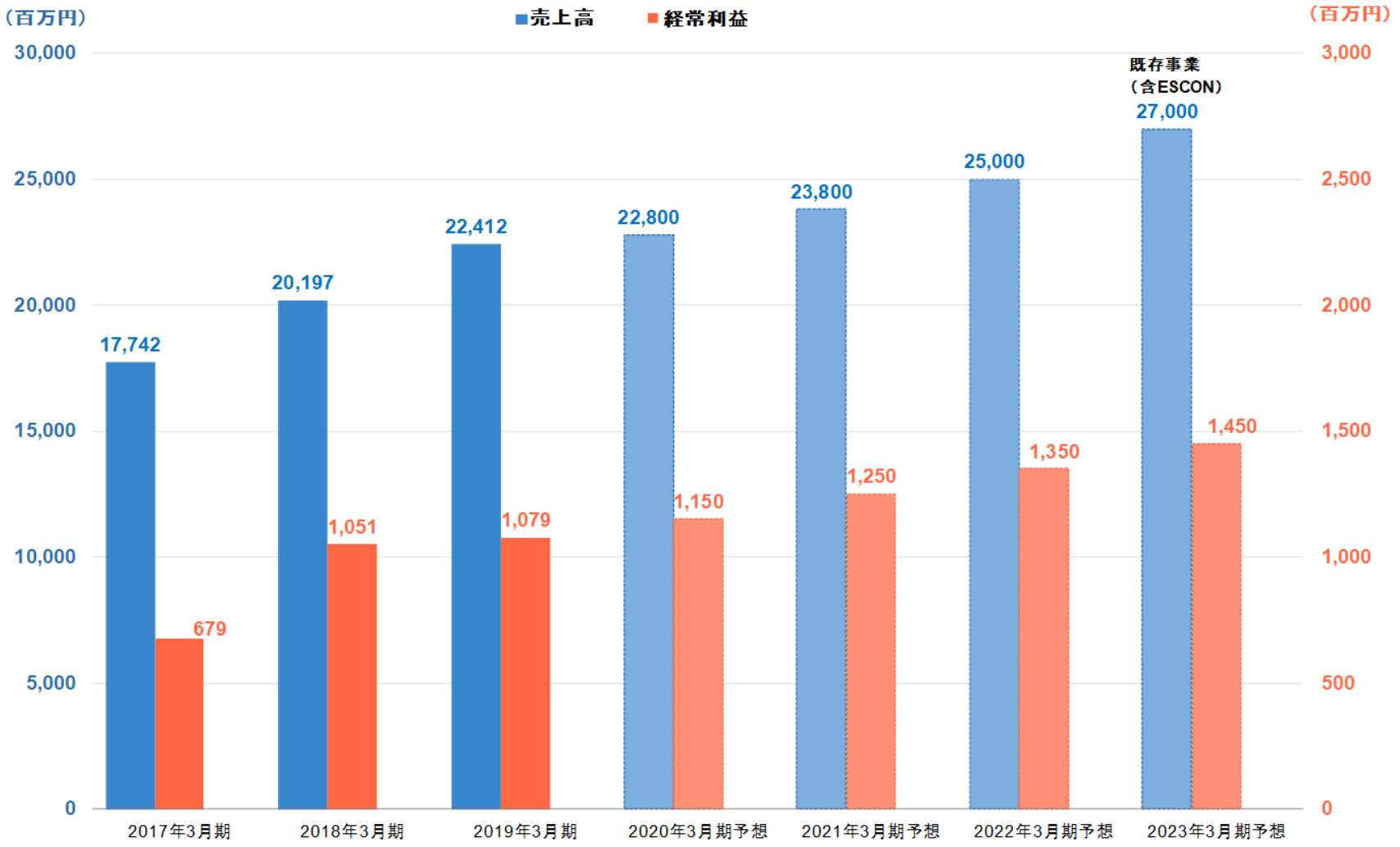
| | 2015年3月期 | 2016年3月期 | 2017年3月期 | 2018年3月期 | 2019年3月期 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1株当たり当期純利益(円) | 11.70 | 11.97 | 14.36 | 22.75 | 23.40 |
| 1株当たり純資産(円) | 259.08 | 256.2 | 259.74 | 278.43 | 289.98 |
| 1株当たり配当額(円) | 22.00 | 20.00 | 16.00 | 18.00 | 10.00 |
| 配当性向(連結)(%) | 94.0 | 83.5 | 55.7 | 39.6 | 42.7 |
| 株主総利回り(%) | 77.2 | 54.6 | 51.1 | 70.8 | 64.3 |
| (比較指標:TOPIX)(%) | (128.3) | (112.0) | (125.8) | (142.7) | (132.3) |

(注)1. 2020年3月期の1株当たり配当額は10円00銭を予定しております。
2. 当社は2018年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行いました。
3. 2018年3月期 期末配当の内訳： 普通株式 16円00銭 記念配当 2円00銭

# エスイーグループ売上／利益目標

株式会社 エスイー

## ●中期売上高300億円化戦略



## ■ 企業価値向上　－　持続的成長に向けて

- 社会的な課題への取り組みを通じて、エスイーグループの成長戦略を着実に実行していきます。
- 中期売上高300億円化、そして中長期1,000億円企業グループの創出に挑戦していきます。
- 「コーポレート・ガバナンスコード」や「伊藤レポート」に示された「超過収益力」、すなわち資本コストを上回る利潤を生み出す企業価値の向上を目指します。
- そして、安定と持続的成長の可能な社会の実現の為に、今後とも貢献を続けます。

# 本日はありがとうございました

## 2020年3月期　第2四半期決算発表のご案内（予定）

決算発表日：2019年11月5日（火）
開 示 場 所：株式会社エスイー　ホームページ　IR情報
http://www.se-corp.com/ir/Top.html

## 将来見通しに関する記述についての詳細〔ご参考〕

当資料は、あくまで株式会社エスイーをより深く理解していただくためのものであり、当資料に記載されたいかなる情報も、当社株式の購入や売却を勧誘するものではなく、またこれらに関する投資アドバイス目的で作成されたものでもありません。

本資料に記載されている当社の業績見通し、計画、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関係する見通しであります。これらは現時点で入手可能な情報に基づき株式会社エスイーの経営者が判断したものであり、リスクや不確実性を含んでいます。したがいまして、これらの業績見通しのみに依拠して投資判断を下すことは控えるようお願いいたします。

International Engineering Maker

SEC 株式会社 エスイー

# 付属資料

# グループ事業内容

株式会社 エスイー

| セグメント | 区分 | 主な事業内容・製品等 | 会社名 |
|---|---|---|---|
| **建設用資機材の製造・販売事業** | ケーブル製品分野 | 「アンカー」、「落橋防止装置」、「PC用ケーブル」、「外ケーブル」、「斜材」、「控索」等のケーブル製品（付属品）の製造・販売<br>建設用機材のレンタル | ㈱エスイー<br>㈱コリアエスイー<br>㈱アースデザインエンジニアリング |
| | 鉄鋼製品分野 | 「KIT受圧板」、「変位制限装置」等 建設用鉄鋼製品の製造・販売<br>建設商材の販売 | ㈱エスイー<br>エスイー鉄建㈱ |
| | コンクリート製品分野 | コンクリート二次製品の製造・販売<br>ESCON材料、二次製品の製造・販売 | ㈱エスイー<br>A&Kホンシュウ㈱<br>㈱北都運輸 |
| **建築用資材の製造・販売事業** | 建築金物分野 | 「セパレーター」、「吊りボルト」等の建築用資材の製造・販売 | A&Kホンシュウ㈱ |
| | 建築鉄骨分野 | 鉄骨工事および建築部材・建築耐震金物等の製造・販売 | エスイー鉄建㈱ |
| **建設コンサルタント事業** | — | 国内建設コンサルタント事業、海外（特にアフリカ、東南アジア）での建設コンサルタントサービス | ㈱アンジェロセック<br>㈲日越建設コンサルタント（VJEC） |
| **補修・補強工事業** | — | 補修・補強工事（橋梁構造物・トンネル、水力発電所等）の施工および点検・調査業務 | エスイーリペア㈱<br>㈱ランドプラン |

# 建設用資機材の製造・販売事業

エスイー　A&Kホンシュウ　エスイー鉄建

**環境防災分野**　地すべり防止用の「アンカー」や緑化と景観に配慮した「KIT受圧板」、地震による橋桁の落下を防止する「落橋防止装置」などの製品群を供給し、環境の保全と災害の防止に貢献しています。

・環境保全、地すべり防止
・港湾施設、地中構造物の耐震補強
・橋桁落下防止
・耐久性監視用モニタリングシステム

**橋梁構造分野**　主に橋梁や道路橋などに用いられるプレストレストコンクリート用引張材「SEEEケーブル」をはじめ、「外ケーブル」や「斜材ケーブル」などの製品群およびその関連製品や付帯エンジニアリングサービスの供給を通して社会資本整備に寄与しています。

・国内外の新設橋梁
・既設橋梁の補修・補強
・斜材事業、トータルエンジニアリング

**PPP／コンセッション分野**　国内建設市場の縮小が続く一方、環境保全ニーズや社会インフラのメンテナンスなどは今後も増加が予想されます。限られた予算の中で安心・安全な生活維持のために、PPP（官民連携で公共事業を行う制度）の推進を目指し、国内外でニーズに即したご提案をいたします。

・導入可能性調査
・PPPモデルのご提案
・アドバイザリー業務
・モニタリング業務

# 建築用資材の製造・販売事業

A&Kホンシュウ　エスイー鉄建

A&Kホンシュウ株式会社では、コンクリート型枠工事で用いるセパレーター、軽天吊ボルト用全ネジボルトの製造販売を中心として、その他型枠工事用金物および内装用資材の販売を行っております。
エンドユーザーに限りなく密着し、現場のニーズを汲み上げて製品の改良・開発を行うとともに、きめ細かいデリバリーサービスによってお客様をサポートしています。

**仮設建材事業**
仮設型枠工事に必要な製品や資材を種類・数量ともに豊富にご用意しています。

**内装建材事業**
吊ボルト・ねじ製品をはじめとし、幅広い製品を取り揃えて、施工全般をサポートしています。

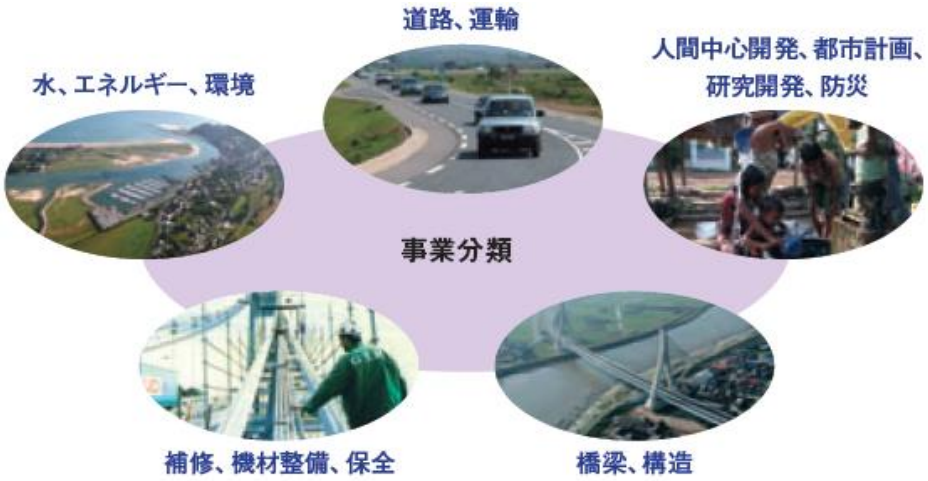
**生産事業**
高精度を誇る生産ラインで、製品に使われる線材の全てを自社で生産しています。

# 建設コンサルタント事業

INGÉROSEC アンジェロセック

アンジェロセック

長年技術提携し、協力関係にあるフランス大手エンジニアリング会社アンジェロップ社と、2001年6月に合弁で株式会社アンジェロセックを設立し、国内外での活動を開始しました。アンジェロップ社の豊富な実績とノウハウを積極的に活用し、海外の政府開発援助、国内公共事業、PPP事業のほか、国内の大型プロジェクトなどを対象に活動しております。




**人間中心の開発・都市計画・研究開発・防災**
多様性を有する世界の中で、人々が相互に認め合い、共存・共栄を図り、人間の安全保障の視点に立った開発の実現を目指しています。

**道路セクター・運輸セクター**
道路や橋梁の調査・計画・設計および施工監理業務において、アジアやアフリカ、ヨーロッパをはじめ世界の公共交通に多くの実績をもっています。

**補修・機材整備・保全**
建物の補強技術から建設全体の環境保全まで、 革新的なエンジニアリングで課題解決します。

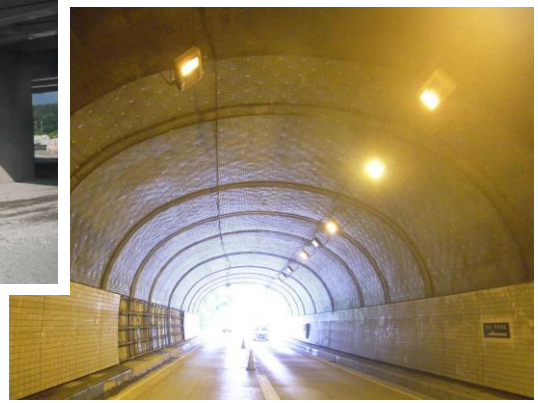
**水・エネルギー ・環境**
給水、水処理、港湾、河川の分野において、概念設計から施工監理までをトータルにサポートし、また仏アンジェロップ社との世界ネットワークを活用し、太陽光、水力、風力等の再生可能なエネルギーの供給など、環境保全を確保した「持続可能な開発」を共に目指しています。

**橋梁・構造**
長年にわたるアンジェロップ社（仏）との技術協力関係から、道路構造物から特殊橋梁まで、明確なコンセプトとディテールにこだわった設計のノウハウを提案の随所に活かし、プロジェクトの初期段階から合理性・コスト縮減・工期短縮・ 景観をふまえて具体的にご提案します。

# 補修・補強工事業

エスイーリペア　ランドプラン

国土を支える道路・橋梁・トンネル・ダム・港湾等は、大切な社会資本です。エスイーグループは、補修・補強専門に30年以上の実績とノウハウを有し、コンクリート構造物における日常的な点検業務から設計・施工まで一貫したサービスをご提供することで、安全な社会インフラ整備に貢献しています。長年蓄積してきたメンテナンス技術を駆使し、劣化した機能を回復して耐久性を向上させることにより、「大切な社会資本を後世に残すこと」を使命と考えています。



## 点検
損傷の種類や形状調査、変状の発生状況を記録するなどしてコンクリート構造物の維持管理を行う上でのデータベースを作成します。

## 設計
補修・補強設計は目的や用途により多義にわたりますが、それぞれのニーズに適した製品・技術を選択し、最適な設計を行います。

## 調査・診断
点検から一歩進んだ、より精密な調査を実施し、収集したデータを基に豊富なエンジニアリングのノウハウを駆使した分析を行います。

## 補修・補強工事施工
炭素繊維シート補修・補強工法や鋼板接着工法等をはじめ、豊富な実績とノウハウを駆使して、橋梁・トンネル・海洋構造物などのコンクリート構造物における、老朽化による劣化の補修や地震などの自然災害に備えた耐震補強の施工を行います。

# 連結損益計算書

株式会社 エスイー

（単位：百万円）

| | 2018年<br>3月期 | 2019年<br>3月期 | 増減<br>（増加率） | 主な要因 |
|---|---|---|---|---|
| 売上高 | 20,197 | 22,412 | +2,215<br>（+11.0%） | +1,180 コンクリート子会社を連結したことによる増加<br>+1,172 建築用資材での建築金物・鉄骨の販売増<br>+197 建設コンサルタントの設計業務収入の増加 |
| 営業利益 | 954 | 1,120 | +166<br>（+17.4%） | +139 建設コンサルタントでの高利益率案件の完工等<br>+119 コンクリート子会社を連結したことによる増加<br>+62 建設用資機材でのケーブル・鉄鋼製品の増益<br>△125 大型鉄骨工事での製造工程での追加原価の発生等 |
| 経常利益 | 1,051 | 1,079 | +27<br>（+2.6%） | △167 持分法による投資利益の増減（コリアエスイー） |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 | 680 | 699 | +19<br>（+2.9%） | |

# 連結貸借対照表

株式会社 エスイー

（単位：百万円）

| | 2018年3月末 | 2019年3月末 | 増減額 | 主な増減要因 |
|---|---|---|---|---|
| 流動資産 | 14,589 | 15,195 | +605 | 現金及び預金 △360<br>受取手形及び売掛金 +487<br>たな卸資産 +424 |
| 固定資産 | 7,936 | 7,897 | △38 | |
| 資産合計 | 22,525 | 23,093 | +567 | |
| 流動負債 | 8,656 | 9,319 | +663 | 支払手形及び買掛金 +934<br>借入金及び社債 △591 |
| 固定負債 | 5,523 | 5,060 | △463 | |
| 負債合計 | 14,180 | 14,380 | +200 | |
| 純資産合計 | 8,345 | 8,712 | +367 | 利益剰余金 +430 |
| 負債純資産合計 | 22,525 | 23,093 | +567 | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 自己資本比率 | 37.0% | 37.6% | +0.6% | |
| ROE | 8.5% | 8.2% | △0.3% | |

# セグメント別業績

株式会社 エスイー

（単位：百万円）

| | 2018年3月期 | | 2019年3月期 | | 前期比 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 売上高 | 構成比 | 売上高 | 構成比 | | |
| | 営業利益 | 利益率 | 営業利益 | 利益率 | | |
| 建設用資機材の製造・販売 | 8,676 | 42.9% | 9,594 | 42.8% | 917 | 10.6% |
| | 559 | 6.4% | 739 | 7.7% | 179 | 32.1% |
| 建築用資材の製造・販売 | 8.724 | 43.2% | 9,896 | 44.2% | 1,172 | 13.4% |
| | 426 | 4.9% | 291 | 2.9% | △134 | △31.6% |
| 建設コンサルタント | 678 | 3.4% | 875 | 3.9% | 196 | 29.0% |
| | 45 | 6.7% | 184 | 21.0% | 138 | 302.2% |
| 補修・補強工事 | 2,117 | 10.5% | 2,046 | 9.1% | △71 | △3.4% |
| | 255 | 12.1% | 235 | 11.5% | △20 | △8.0% |
| 合　　計 | 20,197 | 100.0% | 22,412 | 100.0% | 2,215 | 11.0% |
| | 954 | 4.7% | 1,120 | 5.0% | 166 | 17.4% |

■各事業の売上高はセグメント間の内部取引を除き、また営業利益の合計では内部取引および全社費用、のれんの償却額を控除した上、端数調整した数字を記載しております。

# 2020年3月期　連結業績予想

株式会社 エスイー

（単位：百万円）

| | 2019年3月期 実績 | 2020年3月期（予想） | 前期比 | |
|---|---|---|---|---|
| 売上高 | 22,412 | **22,800** | 387 | 1.7% |
| 営業利益 | 1,120 | **1,153** | 33 | 3.0% |
| 経常利益 | 1,079 | **1,150** | 71 | 6.6% |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 | 699 | **677** | △22 | △3.2% |

2020年3月期 期末配当金　1株当たり　10円（予定）

## 【ご参考：1株当たり当期純利益・配当金及び配当性向の推移（連結）】

| | 2018年3月期 | 2019年3月期 | 2020年3月期（予想） |
|---|---|---|---|
| 1株当たり当期純利益（円） | 22.75 | 23.40 | **22.66** |
| 1株当たり配当金（円） | 18 | 10 | **10** |
| 配当性向（%） | 39.6 | 42.7 | **44.1** |

（注）2018年3月期期末配当金の内訳：普通配当16円00銭　50周年記念配当 2円00銭
2018年3月期の『1株当たり当期純利益』は、2018年10月1日に実施した株式分割に基づき算出した理論値です。
2019年3月期配当金は、株式分割（1：2）を考慮した配当金額を記載しています。

# 成長戦略

株式会社 エスイー

## クリーンエネルギーの開発（プラズマ発電）

$CO_2$、放射線の発生しないエネルギー発電の基礎的研究開発に成功、実用化研究開発中

## 超高強度合成繊維補強コンクリート（ESCON）の事業拡大とマーケティング

## 戦略的M&Aの推進　　海外事業展開

**3 新規事業の創造**

**2 成長事業の拡大**

**1 既存事業の安定成長**

### 建設コンサルタント事業

INGÉROSEC アンジェロセック

**株式会社アンジェロセック**

- JICA技術協力プロジェクト
  ⇒　相手国政府職員の能力向上
- JICAプロジェクトにおいて中堅・若手技術者がプロジェクトの総括、副総括として参画
- 提案能力/事業推進力の向上による受注競争力の強化
- 仏アンジェロップ、ベトナムVJECによる技術力向上とさらなる国際化推進

### 補修・補強工事業

**エスイーリペア株式会社**

**株式会社ランドプラン**

- ESCON®とエスイーリペアの新たな融合による独自工法の開発と提案
- 営業力強化、安定顧客層の形成による受注力の向上
- 施工力の強化と施工品質の向上
- 事業エリアの拡大とエンジニアの積極的採用

### 建設用資機材の製造・販売事業

**株式会社エスイー**

**A&Kホンシュウ株式会社**

**エスイー鉄建株式会社**

- アンカー工法の応用分野拡大、砂防えん堤、海岸堤防、嵩上げ
- 土木分野における耐震金物の受注拡大
- インフラの大規模更新・補修補強事業の獲得
- コンクリート二次製品の製造・販売

### 建築用資材の製造・販売事業

**A&Kホンシュウ株式会社**

**エスイー鉄建株式会社**

- 首都圏を中心とした民間住宅/非住宅投資の安定的な建設需要取込
- 東北地区における復興再生需要の取込
- 鉄骨・梁加工製品等の鉄骨工事（Mグレード、Hグレード）
- 建築部材・建築耐震金物等の製造・販売

2019年4月
エスイーグループ

# Factory and Laboratory of SE Group

## SECグループの工場配置図